

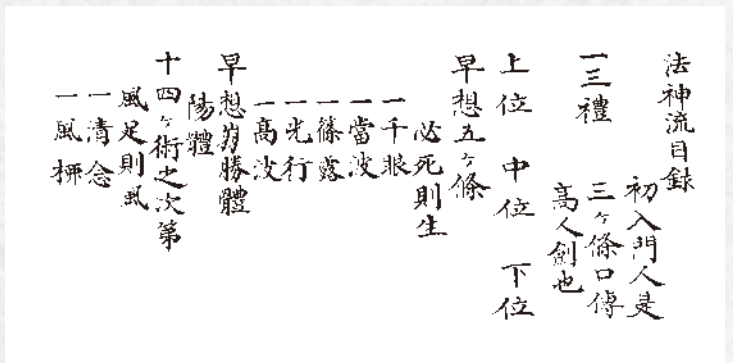


群馬県は、戦国時代末期に剣聖・上泉武蔵守信綱が現れるなど、古くから武術の盛んな土地柄でした。江戸時代になると、武士だけでなく農村でも剣術や柔術の諸流派が広く流布します。

赤城山麓では、(本間)念流、荒木流、気楽流などに加えて、赤城の神仙と呼ばれた榎本法神(富樫白生政武)が、法神流を創始して剣術と躰術を多くの門弟に教授しました。弟子のうちで最も優れた星野(須田)房吉は、前橋や江戸に道場を開くなどして活躍しますが、平川不動(現沼田市利根町)への掲額から争いを生じて謀殺されます(菌原騒動)。

その後、利根法神流の中澤貞祇は幕末の浪士組に加わり、近藤勇などと共に京に上ります。間もなく江戸に戻ってからは、新徴組隊士として市中の治安維持に当たりました。さらに、戊辰戦争では、庄内に移って活躍しました。また、昭和4年の天皇即位記念の御大礼記念天覧武道大会では、前橋出身で法神流道場主を父に持つ持田盛二範士が優勝し、「昭和の剣聖」と称されるなど現代にいたるまで著名な剣士を輩出しています。

今回の企画展では、渋川市赤城町で発祥した法神流を中心に、貴重な「坂本龍馬と桂小五郎の剣術試合結果」を示す資料や写真などの展示を通して、江戸時代後半の赤城山麓で行われていた農村武術の概要を紹介します。



**資料館案内**

施設名 渋川市赤城歴史資料館  
 所在地 〒379-1122 渋川市赤城町勝保沢110番地  
 TEL/FAX 0279-56-8967

**交通案内**

車 関越自動車道赤城インターから5分、または関越自動車道渋川伊香保インターから15分  
 バス JR上越線・吾妻線渋川駅から関越交通バス勝保沢行き15分、「赤城幼稚園前」下車徒歩5分

